

主催：日本ソルフェージュ研究協議会

第7回 ワークショップ

授業を通してソルフェージュを考える

日本ソルフェージュ研究協議会は、ソルフェージュを従来の枠に囚われず、幅広い観点から考察するため、講演会、シンポジウム、ワークショップ、研究発表、演奏者からの提言と定期的に催事を行っておりますが、昨年に引き続き、関西地区での第3回目のワークショップを開催させて頂く運びとなりました。

今回は、相愛大学音楽学部の赤石敏夫先生と本協議会荒尾岳児理事（東京音楽大学）が、ソルフェージュ教育への、角度を変えたアプローチを提示いたします。

共に作曲出身ですが、それぞれの個性を活かしたユニークな展開を通して、ソルフェージュの可能性と問題点を皆様と共に考えていきたいと思っております。より多くの皆様のご参加を、心よりお待ちしております。

日本ソルフェージュ研究協議会会長 渡辺 健二

日時：2018年 **3月24日** (土) 14:00～(13:30開場)
会場：相愛大学：アンサンブル・スタジオ (B1F)



荒尾 岳児 Gakuji ARAO

東京大学文学部卒業後、東京藝術大学音楽学部作曲科を経て同大学院修士課程作曲専攻修了。作曲・編曲と並行し、アンサンブル・ピアニストとして活動中。共著・参加作品として、『音楽史からみたリズム・スタディ』（全音楽譜出版社）、『新曲視唱523』（カワイ出版）、CD『マタドール～情熱のハーモニカ/和谷泰扶』『曼珠沙華幻想/和谷泰扶』（ナミ・レコード：ピアノ・編曲）など。現在、東京音楽大学准教授、東京藝術大学非常勤講師。日本ソルフェージュ研究協議会理事。

◆音楽大学におけるソルフェージュ初学者への学習サポートを考える ～聴音を中心に～

学習の開始が遅いなどの理由で、ソルフェージュに関して初学者の段階にとどまる学生を指導するにあたっては、相応の重点的なケアが不可欠である。ソルフェージュ能力の向上のためには普段からの継続した学習が必要であり、その必要性への意識を学生に喚起し、自発的な学習を促すために、どのような工夫が可能だろうか。インターネット環境などを取り入れた、報告者自身の授業内での実践方法の紹介を軸に、多角的でより実効性の高い指導方法のあり方を考察する。



赤石 敏夫 Toshio AKAISHI

国立音楽大学音楽学部作曲学科卒業。現在、相愛大学音楽学部教授。ソルフェージュ、和声学、作・編曲法などを担当。所属団体：日本現代音楽協会、日本作曲家協議会（理事）、全日本ピアノ指導者協会、日本電子キーボード音楽学会、日本ソルフェージュ研究協議会各会員。著書：「ソルフェージュ入門」（KMP刊）、「独習聴音問題集（上・下CD-R付）」、「視唱ステップアップ（共著）」（全音楽譜出版社刊）他。

◆ソルフェージュ教育の様々なアプローチ

聴音、視唱を中心とした訓練をルーティンとして毎回の授業やレッスンで実施することは大切なことです。また、海外の教材やソルフェージュ教育にヒントを得て指導法を考えることも大切です。いずれにせよ、生徒・学生に最も効果的な方法を選んで実践できるよう、指導者は多くの引き出しを持っていないければなりません。本日は長年のソルフェージュ指導の経験から学んだ様々なアプローチの例をお見せします。これからの指導の参考になれば幸いです。

▶入場料無料

なお、正会員以外の方は以下の経費負担をお願い致します。
一般 3,000 円、学生 1,000 円、賛助会員 1,500 円

▶問い合わせ先：

日本ソルフェージュ研究協議会事務局

Tel. 090-5566-8567

E-mail : ni-sol-ken@island.dti.ne.jp

http://www.ni-sol-ken.com/index.html

Homepage



facebook



相愛大学 音楽学部 本町学舎



地下鉄 御堂筋線 本町駅 4番出口 徒歩1分